

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2017-夏

No.84

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



おなが鳥 1965年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

私は芭蕉が詠んだ「桜」は、なんという種だったのでしょうか。という問題が残ります。それはそれとして、生物学的にはソメイヨシノは、クロンとのことです。

私が研究室のスタッフと共に研究・開発に取り組んでいるクロン文化財に関する技術は、着実に進化を遂げております。本号で御紹介した法隆寺の釈迦三尊像は最近の成果です。

今、私どもの拠点のある上野の山は鮮やかな緑につつまれております。私が当財団の理事長を引き受けして一年となります。この間、アメリカ

で、フランスで、そして韓国で指導者が変わり、それに伴い世界は予想不能の変化を遂げようとしております。誠に時の流れは無常で早いものだと改めて感じた次第です。

そうした中、私にとって一年前の一番の懸案は、アフガニスタンからの流出文化財の返還問題でした。幸い、紆余曲折を経ながらも、多くの方々の善意のもと、文化財は無事、アフガニスタンに戻りました。しかしながら、アフガニスタンの政情は残念ながら極めて不安定です。帰還を果たしたものの、その後の文化財の行方を案じておりまして、二月十三日からカブール国立博物館において「流出文化財帰国展」が開かれるという報に接し、安堵いたしました。

帰国展の開会式は、カブール駐在の外交団の方々を招いて盛大に行われたとのこと。この席でアフガニスタン政府は「流出文化財保護日本委員会」の活動に対し、感謝の言葉を述べるとともに、これを主導されてきた平山郁夫先生に対し、同国の文化部門の最高勲章である「サイード・ジャマルディーン勲章」を授与されました。

この勲章は、鈴鹿光次駐アフガニスタン大使を通じて平山美知子夫人に三月十一日に「平山郁夫シルクロード美術館」にて手渡されました。終わりよければ全てよし、などと言われますが、なにはともあれ一段落した思いでした。

現在、当財団をめぐる最大の課題は、御支援し

てくださる個人、法人の方たちをいかにしたら多くすることができようか、という点に尽きます。

私たちは人の心を癒し、豊かにする文化・芸術に課せられた使命を全うすべく、その発展に寄与してまいりたいと願っております。

しかしながら、こうした活動を継続することは、多くの物心両面の御協力を必要とすることも事実です。そのような財団事情の中、京都にお住まいになられていた方から本年より多大な遺贈を賜ることになりました。

御遺言状には、平山郁夫先生の唱えられた文化財赤十字構想を實踐されている財団のあり方に共感したので、自身の遺産をそのために有効に使っていただきたい……とあったそうです。

私たちは、この御心に沿うべく努力してまいりたいと思います。

遺贈が実行されるまでには、それなりの時を要しましたが、最終決定が成された一月に京都洛西の地に御母堂と共に眠るこの方の菩提寺に御礼の墓参をさせていただきました。

最後になりましたが、財団創設以来、顧問弁護士として大変お世話になりました俵谷利幸顧問が去る三月一日に、また元・東京ドーム社長の林有厚・当財団前副理事長が五月十七日に逝去されました。ここに両氏より賜りました御恩に深く感謝すると共に御冥福を心より御祈念申し上げます。

花の雲鐘は上野か浅草か

これは貞享四年（一六八七）、俳聖・松尾芭蕉が四十四歳の時の作と伝えられる名句です。御存知の通り、桜の季節となると私たちは、よくこの句におめにかかります。

もともと、一般に桜というと、ソメイヨシノを指しますが、これはオシマザクラとエドヒガンとの交配で創り出された種で、自然界にずっと存在していたわけではありません。

伝えられるところによれば、ソメイヨシノは江戸末期に生まれ、明治以降、急速に全国に広まりました。日本では、桜は固有種・交配種を含めて六百種以上の品種が確認されているそうですが、ソメイヨシノは今やその中の代表格の地位にあります。

では、芭蕉が詠んだ「桜」は、なんという種だったのでしょうか。という問題が残ります。それはそれとして、生物学的にはソメイヨシノは、クロンとのことです。

私が研究室のスタッフと共に研究・開発に取り組んでいるクロン文化財に関する技術は、着実に進化を遂げております。本号で御紹介した法隆寺の釈迦三尊像は最近の成果です。

今、私どもの拠点のある上野の山は鮮やかな緑につつまれております。私が当財団の理事長を引き受けして一年となります。この間、アメリカ

一年という歲月

で、フランスで、そして韓国で指導者が変わり、それに伴い世界は予想不能の変化を遂げようとしております。誠に時の流れは無常で早いものだと改めて感じた次第です。

そうした中、私にとって一年前の一番の懸案は、アフガニスタンからの流出文化財の返還問題でした。幸い、紆余曲折を経ながらも、多くの方々の善意のもと、文化財は無事、アフガニスタンに戻りました。しかしながら、アフガニスタンの政情は残念ながら極めて不安定です。帰還を果たしたものの、その後の文化財の行方を案じておりまして、二月十三日からカブール国立博物館において「流出文化財帰国展」が開かれるという報に接し、安堵いたしました。

帰国展の開会式は、カブール駐在の外交団の方々を招いて盛大に行われたとのこと。この席でアフガニスタン政府は「流出文化財保護日本委員会」の活動に対し、感謝の言葉を述べるとともに、これを主導されてきた平山郁夫先生に対し、同国の文化部門の最高勲章である「サイード・ジャマルディーン勲章」を授与されました。

この勲章は、鈴鹿光次駐アフガニスタン大使を通じて平山美知子夫人に三月十一日に「平山郁夫シルクロード美術館」にて手渡されました。終わりよければ全てよし、などと言われますが、なにはともあれ一段落した思いでした。

現在、当財団をめぐる最大の課題は、御支援し



理事長
宮廻 正明
(みやまけい・まさあき)

てくださる個人、法人の方たちをいかにしたら多くすることができようか、という点に尽きます。

私たちは人の心を癒し、豊かにする文化・芸術に課せられた使命を全うすべく、その発展に寄与してまいりたいと願っております。

しかしながら、こうした活動を継続することは、多くの物心両面の御協力を必要とすることも事実です。そのような財団事情の中、京都にお住まいになられていた方から本年より多大な遺贈を賜ることになりました。

御遺言状には、平山郁夫先生の唱えられた文化財赤十字構想を實踐されている財団のあり方に共感したので、自身の遺産をそのために有効に使っていただきたい……とあったそうです。

私たちは、この御心に沿うべく努力してまいりたいと思います。

遺贈が実行されるまでには、それなりの時を要しましたが、最終決定が成された一月に京都洛西の地に御母堂と共に眠るこの方の菩提寺に御礼の墓参をさせていただきました。

最後になりましたが、財団創設以来、顧問弁護士として大変お世話になりました俵谷利幸顧問が去る三月一日に、また元・東京ドーム社長の林有厚・当財団前副理事長が五月十七日に逝去されました。ここに両氏より賜りました御恩に深く感謝すると共に御冥福を心より御祈念申し上げます。

オリンダ歴史地区

(ブラジル連邦共和国)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

©UNESCO

ブラジル北東部、ベルナンブーコ州の州都近郊の都市。六世紀以後、製糖業で繁栄したポルトガル人やオランダ人によって豪華な邸宅や教会、修道院が建てられた。現在でも、セー教会、ミゼリコルディア教会、サン・ベント修道院、サン・フランシスコ修道院、カルモ教会など、十六、十八世紀にかけての二〇以上の建造物が残り、独自のコロンIAL様式が美しい風光の中に映えている。

(一九八二年に文化遺産として登録)

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

神は松尾

——松尾大社平成の御遷宮によせて

お酒の神さまとして親しまれている松尾大社は、
王城の地・京都にあって大山咋神と市杵島姫命を祀る
最古の神社。洛西の総氏神であり、醸造祖神でもある松尾大社では、
平成三〇年をめざして五〇年ぶりの御遷宮事業が進んでいる……。



松尾大社
宮司
生薦 經和
(いくしま つねかず)

◎はじめに

「神は 松の尾。八幡、この國の帝にておはしましけむこそめでたけれ」
『枕草子』第二八七段、冒頭の一節です。清少納言は「光線の言語」といわれるような独特の直観的な感性で、折々の事物などを端的に表現しています。その中で「神は松尾」として、「神」の最初に「松尾の神」を挙げていることは、清少納言個人の心情はもとより、平安時代の人々の当社に対する崇敬の篤さを窺い知ることができるのではないのでしょうか。

◎松尾大社の創祀と磐座祭祀

松尾大社は京都最古の神社の一つで、太古この地方一帯に住んでいた人々が、松尾山の神霊を祀って生活守護神としたのが起源といわれます。京都盆地が一面の沼沢地であった古代においては、人々は周囲の山麓に居住していました。西山・嵐山連峰もその麓一帯に生活をする人たちにとっては、山は自分たちの生命を育む源であり、その主峰である松尾山の頂上に近い大杉谷の上部の巨石を磐座として神を祀り生活の守護神としたのが、松尾大社の創祀であったと思われます。

五世紀の頃朝鮮半島から渡来した秦氏がこの地

◎賀茂の厳神、松尾の猛霊

平安京では当初、盆地周辺の三方の山々の麓には賀茂社・松尾社・稲荷社が鎮座されており、遷都とともに多くの神社が新たに祀られました。特に当社に対する皇室のご崇敬は極めて厚く、東の賀茂両社と共に王城鎮護



桂川の清流にかかる松尾橋東詰からの松尾山遠景



松尾山の山霊を祀る磐座

◎貴重な文化財

当社は、二件の国指定の重要文化財を有しています。一件は、平安時代初期の作と伝えられる



松尾山の木々につつまれた境内



国の重要文化財に指定されている御本殿

本殿建築の概要としては、建坪三五坪、桁行三間、梁間四間、特殊な両流れ造りで、箱棟の棟端が唐破風形になっているのは他に類例がなく、柱や長押などの直線と屋根の曲線との調和、木部・檜皮の色と柱間の壁の白色とが交錯して醸し出す色彩の美しさ、向拝の斗組・幕股・手挟の彫刻意匠は、中世の特色を遺憾なく発揮しているといわれています。

現在、この御本殿の檜皮屋根の葺替え・修復を中心として、江戸時代初期の寛永年間建立の楼門の修理などの諸事業を、「平成の御遷宮」として進めています。

◎「平成の御遷宮」に向けて

伊勢の神宮では、二十一年に一度「式年遷宮」が行われます。式年遷宮とは、定められた期間ごとに御社殿を建替え、御神宝・御装束なども新調して大神様にお遷り願ひ、御神威の甦り、一層の高まりを願うものであります。平成二十五年に第六十二回の御遷宮が行われたことは、記憶に新しいところです。二十一年に一度という期間の定めについては、明確な根拠はないようですが、技術の伝承という意味では合理的な年数ではないかともいわれています。当社には式年の制は残されておらず、また全面的な建替えを行うわけはありませんが、近年では昭和四十二年から四十六年にかけて、「昭和の大造営」



島杵市神祭御
命を連想させる国の重要文化財である御神像

等身大一木造の神像三軀であります。現存する古代の神像としては、薬師寺の休ヶ岡八幡宮と教王護国寺（東寺）御影堂の僧形八幡神像に続くものとして、我が国の神像彫刻史上特筆されるものであります。

そしてもう一件が、「松尾造り」として知られる本殿であります。大宝元年に創建以来、当社に残る記録では延暦三年（七八四）・長治二年（一一〇五）・弘安十年（一二八六）・明徳四年（一三九三）・応永四年（一三九七）と改修・改築されたと伝えられます。そして永享六年（一四三四）と天文十年（二五四）・十九年（二五六）にかけて大修理が施されてまいりました。その後も数度の修理を経て、大正十三年・十五年に解体修理が行われていま



現在、進行中の工事の様

芸術研究助財団」において、本事業について文化財保存修復の立場からご指導・助成を賜っており、ますます衷心より感謝申し上げます。次第で

筆者略歴

昭和22年（一九四七）京都市生れ。昭和46年、皇學館大学文学部国文学科卒業後、松尾大社に奉職。平成25年、松尾大社宮司を拝命。現在、神社本庁参与、京都府神社庁理事、（学芸）皇學館協議員、（公財）京都古文化保存協会理事等を兼任。

熊本地震による装飾古墳の危機

古墳——死者の魂が鎮まり、眠る場所。
玄室を鮮やかな色で飾る装飾古墳。
多くの謎を秘めた熊本地方に残る古墳が今、危機に……。

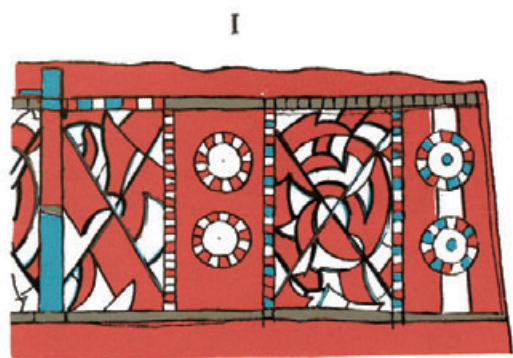
はじめに

平成二八年（二〇一六年）熊本地震（以下、「熊本地震」）における文化財への被害については本誌81号・82号で速報されたが、本稿では装飾古墳の被災とその対応にかかる概要を報告する。

熊本地震では発災当初より文化財への被害の甚大さが報じられた。特に熊本城や阿蘇神社の被害については、様々なメディアを通じて、連日内外に報じられ、世間の耳目を集めた。その一方で、古墳をはじめとするその他の史跡等文化財の被害について取り上げられる機会はまれであった。「古代肥後の精華」ともいえる熊本の古墳文化、その象徴である装飾古墳が今、危機に瀕している。

装飾古墳とは？ ——古代肥後の精華——

古墳内部の壁や石棺等に彩色や線刻、浮彫等の装飾が施された古墳は「装飾古墳」とよばれる（註1）。初めて「装飾古墳」の語が用いられたのは、わが国初の大学考古学講座である京都



井寺古墳の石障装飾 京大報告（1917）の巻頭を飾った実測図

帝国大学考古学教室における最初の発掘調査報告書『京都帝国大学文学部考古学研究報告 第一冊 肥後に於ける装飾ある古墳及横穴』（濱田・梅原一九一七 以下、「京大報告」）であった。それ以前、これらは「竊中朱像」（矢野一八五三）や「古代紋様」（坪井一八八九）等の語でよばれていたが、京大報告以降、装飾古墳の語が定着した。本年は京大報告から百年、被災した昨年は京大の発掘調査から百年の記念すべき年に当たる。

装飾古墳は全国で約六七〇基が確認

されており、その半数以上が九州に分布する。なかでも熊本県域における集中は際立っており、また発生期・古相の装飾古墳の多くも熊本県域に集中し、県域で発生期からその後の展開までたどれるのは熊本県ならではの特徴でもある（註2）。質・量の両側面から、熊本県の装飾古墳は「古代肥後の精華」といべききわめて魅力的な存在感を放ってきた。

熊本地震で被災した装飾古墳

京大報告の影響もあり、熊本県の装飾古墳には、文化財保護法の前身のひとつである史跡名勝天然記念物保存法における第一期指定（一九二二年三月）で史跡指定された古墳も多い（井寺古墳、釜尾古墳、千金甲古墳、大村横穴等）。熊本地震発災時には、国指定史跡に限っても十八の古墳及び古墳群（装飾の有無を問わない）が指定されていた。

これらの古墳の被災状況は、熊本県や地元の市町村により、震災直後から被災状況の把握がおこなわれ、国指定史跡（以下、「史跡」）については文化



被災後の井寺古墳（墳丘亀裂から内部の石材が露出）
嘉島町教育委員会提供

後に調査すべき事項等が整理されてきた。

この委員会における議論や課題は、文化庁が二〇一七年六月に「古墳壁画の保存・活用に関する検討会」の中に設置した「装飾古墳ワーキンググループ」に発展的に引き継がれ、今後は各古墳における取組に向けたより具体的な検討等が進められることとなる。「古代肥後の精華」の輝きが再び取り戻されるまでには暫しの時間とともに、相応な知恵や資金等が必須であることは言うまでもない。皆様方のご理解、ご支援をお願いする次第である。

註1 奈良県明日香村に所在する高松塚古墳、キトラ古墳も、壁画を有する古墳という意味では共通するが、本稿で扱う装飾古墳とは年代や系譜等が異なる。両古墳は装飾古墳とは識別され「壁画古墳」とよばれることが多い。装飾古墳は五世紀後半から七世紀前半（特に六世紀）に盛行し、高松塚古墳・キトラ古墳は七世紀末から八世紀初頭の所産と考えられる。

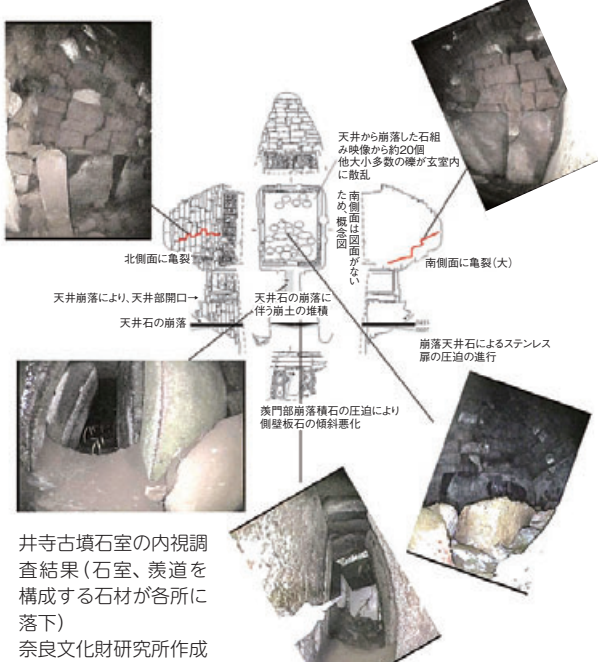
註2 九州国立博物館装飾古墳データベースによる装飾古墳の地域別内訳は、全国（東北四三基、関東一〇一基、中部十三基、近畿四一基、四国十五基、中国六八基、九州三八九基、九州各県（福岡八一基、佐賀三〇基、長崎八基、大分十七基、熊本一九三基、宮崎六〇基）である。註3 類似の被害は、阪神・淡路大震災、東日本大震災ではあまり認められなかった。

文献

坪井正五郎 一八八九「筑後国日の岡にて古代紋様の発見」『東洋学芸雑誌』六八八
濱田耕作・梅原未治 一九一七「京都帝国大学文学部考古学研究報告 第一冊 肥後に於ける装飾ある古墳及横穴」京都帝国大学
矢野一貞 一八五三「筑後將士軍談」

文化庁
古墳壁画対策調査官
建石 徹
（たていし・とおる）

された。この他の古墳は震度6弱が観測された地域に所在するが、史跡千金甲古墳のように同じ震度が観測されていても被害が確認されなかった古墳もある。この違いは布田川断層との距離の違い等が影響している可能性が高い。深刻な被害が認められた前記の古墳は、いずれも布田川断層に沿うよう



井寺古墳石室の内視調査結果（石室、羨道を構成する石材が各所に落下）
奈良文化財研究所作成



奈良文化財研究所による井寺古墳石室の内視調査（崩落した土や石材により石室入口の鉄扉が歪み、石室に立入れない）



塚原古墳群のうち石之室古墳の石棺（被災前）
熊本市文化振興課提供



石之室古墳の石棺（被災後）
熊本市文化振興課提供

に立地する。

一方、震源地から三〇キロメートルほど離れた史跡永安寺東古墳・永安寺西古墳（玉名市）、史跡チブサン古墳・オブサン古墳のうちオブサン古墳（山鹿市）、熊本県指定史跡御霊塚古墳（同）、熊本県指定史跡袈裟尾高塚古墳（菊池市）でも被害が認められた。この付近の震度は5強程度であり、顕著な地割れ等は確認されていない。オブサン古墳近傍に所在するチブサン古墳、史跡江田船山古墳や、永安寺東古墳・永安寺西古墳近傍に所在する史跡大坊古墳では被害は認められていな

飛鳥が告げる未来

法隆寺釈迦三尊像プロジェクトを終えて

一三〇〇年の時の流れを経て、ハイテクと伝統によって再現された
飛鳥人の誇り「釈迦三尊像」製作の意味とは……。

文化財の復元がもつ意味

富山県高岡市ウイングウイングホールで開催した「法隆寺再現釈迦三尊像」（初公開）展は三月二〇日、一〇日間の会期を終えた。入場者約二万人、内外のプレス取材おおよそ一〇〇社という成果を残したが、それはゴールではない。

もしくはゴールにしてはならない。なぜなら今後この像の再現に注入された様々な努力は、例えば、高岡市、南砺市の行政連携、企業を超えた職人間の連携、大学の社会事業への参画、新たな文化マネジメント手法の策定など一つの道ではなく幾つかの道を辿りそれぞれが異なったゴールを目指すだろうし、その過程全体が文化財の本来の価値を回復するという点で重要な提言となることを信じているからだ。

東京藝大の宮廻正明教授率いるチームが開発したデジタル複製に関する特許技術の展開マネジメントを構想したのは、私が建築家の隈研吾とともに二〇一三年に開館した福岡県の九州芸文館のプロデュースを担当した時だった。科学的にも証明できる精密な文化財の複製はどのような目的を持つことができるか、また芸術の機能としてどのような新しい次元を切り開くことができるか、それが私の興味だった。

再現文化財製作の基盤とは

発想したのは、文化財の復元による地域に残る記憶の再生である。法隆寺金堂壁画のみでなくそこに至る、今は分断された広域な記憶のつながり。シルクロードを超えて、また海のシルクロードを超えて伝達された美の表現についての技術と思想、気が遠くなるほどの道のつながり、その中に九州北部もある。その再生のために宮廻チームと協議し、敦煌莫高窟壁画、北朝鮮江西大墓壁画とともに再現することになった。ほぼ同時代の壁画の連鎖は技術と文化の連なりを証明するものである。完成すると一〇〇〇年以上前の交流が眼前に広がるように感じた。

文化財をいかに精密に再現しようと一〇〇パーセント同じになることはほぼ不可能であるが、それを目指す工程と検証の中に記憶とストーリーを遡ることができる。実は作品を再現する以上に記憶を再生することは重要なことだと私は思っている。また製造プロセスの再体験や材料の確認と、触覚など今では再現物でしかできない新たな経験を込めることもできる。つまり、その同時代的感覚を通じて私たちとの時代的共時性を付加することができる。そう確信した。

「呼吸する美術館」というコンセプトが海外でも認

よって表現していかなければならない、ということである。しかし、展示や移動は必ずダメージへのリスクを伴う。そこで複製製作の重要性が生まれるのであるが、現代のような科学の時代ではそれは科学的合理性を持つものでなければならぬ。科学的証明と文化財が示すストーリーの現代への翻訳それが再現文化財製作の基礎となるべきだと私は思っている。

法隆寺釈迦三尊像プロジェクトでは、像を実現した人々の結集を再現するストーリーを重ねた。

釈迦三尊像再現から学んだこと

周知のように、今、工芸産業は危機に瀕している。時代とともにライフスタイルも変化し、人々の信仰心も薄れた、規模の縮小に伴って地域産業の職人雇用も減少し、人材育成や新たな設備への投資もままならないのが現状である。そして、その影響で行われる様々なコストカットへの取り組みは必要な努力ではあろうが人々の産業継続への情熱とプライドを傷つけていく。しかし、一〇〇〇年以上続く日本工芸史において、危機は幾



再現された壁画に囲まれた釈迦三尊像。往時の雰囲気を感じに十分な演出であった（ウイング・ウイング高岡。富山県高岡市）
© 地場産業活性化モデルの構築・展開事業推進協議会



239回に及んだ3次元計測撮影
© 東京藝術大学COI拠点

度も到来した、その都度それを乗り越えて現在まで続いてきた背景はものづくりへの強いモチベーションと日本社会における美の需要だった。

私は今回のプロジェクトデザインにおいて、釈迦三尊像の合理的再現と形而上的美の合体はこの消えかけているモチベーションに再び火をつける試みの端緒になりうると考えた。聖徳太子の国の未来への思いを形にするために絶対的な美を作り上げようとした飛鳥^{あすか}人の情熱を今に再現できる事業になりうると信じたのである。そして3Dプリンティング等の技術の導入はこの産業の未来像を予見することにも貢献するに違いない。それは試行錯誤の中技術革新を行い、ついには世界最高峰の美を一三〇〇年前に実現した飛鳥人たちが思い描いていたことかもしれない。



東京藝術大学社会連携センター
副センター長・本企画キュレーター
伊東 順一
(イ・東・ジュンイチ)

知された長崎県美術館を館長として創設した時、美術館が本来付加され、また現代に求められている機能をもう一度検証する必要性に駆られた。それは巨費を投じて建設される美術館や文化施設においては自ら担うべき役割を明確化する責任があると思ったからである。そして到達したキーワードは「金庫と劇場」というものだった。その意味は、美術館は貴重な文化資料を完璧に保存することが第一の使命であるが、移り行く時代の変遷の中でその価値の役割を伝えるため、時代を考慮した文化資料の価値の翻訳も展示という手法に



再現された法隆寺・釈迦三尊像
© 地場産業活性化モデルの構築・展開事業推進協議会

数百年の歴史を持つ個々の産地の技術、藝大に保存されている技術、知見。再現するものは疑う余地もない最高峰の国宝。法隆寺の大野玄妙管長の特別な許可を得て釈迦三尊像を間近に見た時の四十四人の職人の輝く目を今でも忘れることはできない。国宝の血が現代の血の中によみがえった瞬間である。その後の日々は藝大、高岡、井波を結んだ文化再生の道のりだった。私たちはその過程の中で一三〇〇年前の技術力と造形力に驚かされ続けるのだが、その背景にある文化財と呼ばれるものの不思議な力に魅了される日々でもあった。それは完全無垢な製作意図、つまり社会が変化しても変わらぬ人間の魂に訴えようとする姿勢である。だからこそ現代に生きる我々の心を動かし未来へとその視点を向かせることができるのである。

成果を受けて、今後は二つの方向性を考えている。一つは技術の博物館のような多様性と精度を持つ日本の、世界に対する文化的貢献の拡張と日本の各地域の文化再生を基盤とした創生である。また文化装置の変更に考えなければいけないだろうし、文化共有を前提としたネットワークの整備も必要だろう。しかし、今回、雅楽の現代化にも挑戦したのであるが、飛鳥人が持っていた文化の多国籍性についての視点がその策定の大きな基盤となるに違いない。今回のプロジェクトに参加した若い職人や芸術家、そしてその連携を果たした人々がそのシード（種）になることを祈っている。

筆者略歴

一九五三年長崎県生まれ。早稲田大学文学部仏文科卒。美術評論家、文化事業コンサルタントとしても幅広く活躍。仏政府より文化芸術勲章シユヴァリエ受章。長崎県美術館創設館長、富山大学芸術文化学部教授等を経て二〇一三年より現職。富山市ガラス美術館名誉館長。

東日本大震災被災文化財支援報告

公益財団法人
文化財保護・芸術研究助成財団

二〇一一年三月十一日。この日を私たちは永遠に忘れることはないでしょう。東北地方の太平洋沿岸を襲った巨大地震と津波。多くの尊い人の生命と貴重な財産が失われました。文化財として例外ではありませんでした。あれから六年、現地は多くの人々の善意をもとに力強く復興にむけて歩を進めています。

多くの善意のもとに……

平成七年（一九九五）の阪神・淡路大震災の時の経験もあったため、私たちは東日本大震災による被災文化財の救済に関しては、発災直後に乗り出すことを決めておりました。軌を一にして、文化庁からの呼びかけ

もあって官民一体となった組織が出来るようになりました。活動期間は五年ということで文化庁長官を先頭に募金呼びかけました。その結果、個人、法人を合わせて本年三月末現在で、四億四四八一万九〇〇〇円余の義捐金が寄せられました。

東日本大震災では、津波による被害が甚大でした。被害は多岐にわたりました。沿岸一帯では多くの地区で、祭礼用の用具が流失したり、破損しました。そのため、土地に伝わる祭りを催すことが不能という事態になりました。

義捐金、寄付金の使途明細は、今号の事務局報告の欄で御覧いただきますが、文化財の救援・復旧支援事業には、まず資金、それから根気が必要とします。

もどかしさの中で

古文書をはじめとする紙の文化財は、海水による塩分の除去、汚れの除去、黴などから守るための燻蒸（くんじょう）など、一枚の記録を元の状態にもどすためには根気よく作業に取り組んでいかなければなりません。

また、建造物の場合、特に宮城県の気仙沼の場合は大変だったと思います。

昭和四年（一九二九）、気仙沼は大火に襲われ、壊滅的な被害をうけました。この時、町の復興に一役も二役も買ったのが、気仙大工と呼ばれる高い技術を持った集団でした。彼等が自由闊達なデザイン感覚で築いたのが、今回の地震と津波で大きな被害を被った気仙沼湾に面した風待



被災前



被災直後



修復後

国登録有形文化財「角星店舗（酒造店舗）」は、宮城県気仙沼内湾地区（風待地区）の歴史文化を伝える文化財建物第1号として復元した。

ち地区とよばれる街並みでした。

昭和ロマンの面影を残した風待ち地区一帯は、地盤沈下が著しく、国指定の文化財である建造物は高上げ工事が終了するまでは、復元工事は手つかずの状態でした。

そうした状況のなか、人々の情熱と努力の結果、ゆるやかであるものの大震災前の街並みがもどりつつあるようです。

東北のこころ

当財団は、祭礼のような所謂無形文化財への助成はいたしておりました。

御存知のように、青森ねぶた祭、秋田竿灯まつり、仙台七夕まつりに象徴されるように東北地方には各地に独特の祭りが伝わっております。それは五穀豊穡を願う人々の思いであり、神々への感謝であったのでしよう。

時代は変わり、故郷を出て他所の地で暮らす人々にとって祭りとは、帰郷を促す大きな力であると思います。その祭りが大地震のために挙行できないことは、故郷を失ったに等しい重い出来事だったにちがいないと思います。幸いにも祭り復興のために、という御寄付の御申し出もあつたため、心配を払拭することができました。

被災者の方々も関係者の方々にも、この六年間は無我夢中の時の流れだったと思います。特に多くの尊い人命を失ったということは、筆舌に尽くし難い悲しみであったことは論

を俟ちません。

私たちは、こう考えます。被災地の復興には、まだかなりの時間と費用を必要とします。しかし、現地はその日にむかって着実に歩を進めています。復興を迎えた時こそが、お亡くなりになられた方々への最大の御供養になると思います。

そうした観点から当初の五年間の支援というお約束の期限は終了いたしました。が、私たちは、これからもこの事業を続けてまいりますので、どうか皆さま方におかれましてはその意をお汲みとりいただき、今後ともよろしくお願い申し上げます。



修復後



被災直後

宮城県・安国寺「木造阿弥陀如来坐像」修理



修復後



被災直後

茨城県・宮本昇一「宮本家住宅店蔵新蔵・大蔵復旧」



修復後



被災直後

東京都・延命寺「小塚原の首切地蔵（延命寺地蔵尊）復旧」（有形文化財・歴史資料）



整備された太鼓及び虎頭



岩手県・金石市「箱崎虎舞流出資材等購入」

定款第4条の定めに従い、次の事業を行いました。

平成二十八年度事業報告

■文化財保存修復助成事業

国内文化財の保存修復事業助成として、27都道府県教育委員会から推薦のあった58件の中から、25件について助成を行った。

(敬称略・以下同)

(美術工芸)

- ①埼玉県・正傳院
釈迦涅槃図保存修理事業
- ②石川県・中山周比古
中山家関係資料保存修復事業
- ③大阪府・龍安寺
紺紙金銀字交書一切経(中尊寺経)修復事業
- ④愛媛県・太山寺
絵画「絹本著色弘法大師像」保存修理事業
- ⑤大分県・(株)ヤマコ
破亀甲花菱沢寫軍配紋散蒔絵婚礼調度合
わせ貝保存修理事業
- (建造物)
- ⑥宮城県・刈田嶺神社
刈田嶺神社本殿保存修理事業
- ⑦山形県・安久津八幡神社
八幡神社本殿保存修理事業
- ⑧福島県・八幡神社
八幡神社本殿建造物保存修理事業



福島県・八幡神社
八幡神社本殿建造物保存修理事業

修復(真如寺)

(2)東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業
本事業は5年間継続して実施する予定であり、本年度は5年目になる。申請のあった27件の中から審査の上、18件に助成を行った。なお、無形文化財の助成はバンクオブアメリカ・メリルリンチからの支援によるものである。

(3)アフガニスタン流出文化財復興支援事業

流出文化財返還を記念して開催された展覧会及び返還に伴う作品梱包、運搬等に助成を行った。

①特別企画展「素心・バーミヤン大仏天井壁画」流出文化財とともに」(東京藝術大学アフガニスタン特別企画展実行委員会)

②流出文化財返還に伴う作品梱包、運搬、木箱作成等(日本通運(株))

(4)熊本地震被災文化財救援・修復支援事業
熊本地震により被災した文化財の救援と修復のために募金を行い、当該年度は文化財レスキュー活動に助成を行った。

①熊本地震被災文化財等救援事業(熊本地震被災文化財等救援連絡協議会)
15ページの特集欄に掲載

(5)松尾大社本殿等保存修復支援事業

松尾大社本殿並びに神庫・楼門修復及び神域内の諸整備事業を行い、貴重な文化遺産を後世に守り伝えるための事業。3カ年計画の第1期事業の助成を行った。

①楼門(江戸時代初期造)御屋根檜皮葺替他6件(松尾大社)

■シンポジウム等の開催事業、その他普及広報活動

文化財の保護及び芸術振興に関する啓蒙活動、国際交流、広報活動として広報誌の発行、文化交流フォーラムの開催、そ

⑨茨城県・薬王院
薬王院四脚門保存修理事業

⑩栃木県・高勝寺
石船山高勝寺鐘楼保存修理事業

⑪千葉県・三柱神社
三柱神社本殿保存整備事業

⑫東京都・馬場克己
馬場家御師住宅保存修復事業

⑬長野県・矢彦神社
矢彦神社拝殿他保存修復事業

⑭静岡県・医王寺
医王寺薬師堂保存修理事業

⑮京都府・與能神社
與能神社本殿保存修理事業

⑯兵庫県・斑鳩寺
斑鳩寺庫裏解体・修理事業

⑰奈良県・万法寺
万法寺本堂保存修理事業

⑱岡山県・福武豊郎
福武家長屋門保存修理事業

⑲香川県・猪熊全徳
猪熊家住宅保存修理事業

(有形民俗)

- ⑳神奈川県・鶴岡八幡宮
神輿(鶴岡八幡宮)有形民俗文化財保存修理事業
- ㉑新潟県・羽黒神社
佐渡羽黒神社能舞台修繕事業
- ㉒富山県・下新町曳山保存会
八尾町祭礼曳山(下新町)保存修理事業
- ㉓滋賀県・北町組「青海山」
長浜曳山祭の山車附山蔵/青海山山蔵保存修理
- ㉔鳥取県・倉田八幡宮
馬場八幡人形芝居道具保存修理事業
- (記念物・埋蔵文化財)
- ㉕徳島県・松浦端全
谷の四つ足堂及び周辺石造物群保存修理事業

の他普及広報活動に関連し次の事業を行った。

①広報誌「絲綢之路」の発行

第81号(二〇一六夏) 平成28年6月21日発行
第82号(二〇一六秋) 平成28年10月21日発行
第83号(二〇一七新春) 平成29年1月20日発行

発行部数：各2,000部

配布先：都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布

②文化財保存修復支援力レンダー基金の募金活動(二〇一七年版カレンダー)

募集期間：平成28年9月～平成29年1月
製作題材：出光美術館所蔵「伴大納言絵巻」現状模写作品(5年目)
募金応募件数：1,564件(募金額5,807,048円)

③日中韓文化交流フォーラムの開催

期期：平成28年11月16日(水)～19日(土)
会場：広島県広島市
行事：第12回日中韓文化交流フォーラム
テーマ：「日中韓の食文化と国際交流」

④「第21回妙高夏の芸術学校」の共催

主催：妙高夏の芸術学校実行委員会
共催：(公財)文化財保護・芸術研究助成財団、新潟日報社、妙高市他
期間：平成28年7月28日(木)～7月31日(日)
参加者：日本画(27名) 油彩画(25名) 水彩画(23名) デッサン・スケッチ(14名) 小学生(2名) 計91名

⑤第67回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力

主催：社会を明るくする運動、中央推進

■芸術研究等助成事業

文化財の保存修復及び芸術に関する調査研究、成果の発表、国際交流事業の実施等に対する助成事業として申請のあった20件の中から、12件の事業に助成を行った。

①近世周辺の彫刻作例における持物の研究―長福寺千住観音坐像を中心に―(東京藝術大学 美術研究科 教授 簗内佐斗司)

②オーケストラ・プロジェクト2016(東京学芸大学 教育学部 教授 山内雅弘)

③吉岡孝悦 合唱と打楽器の祭典(日本作曲家協議会 作曲家 吉岡孝悦)

④建築ワークショップ奈良・明日香村(特定非営利活動法人 アートアンドアーキテクトフェスタ 代表理事 平沼孝啓)

⑤ミュージック・フロム・ジャパン2017年音楽祭(東京藝術大学 音楽学部 准教授 福中冬子)

⑥オーケストラ・トリプティーク第5回、第6回演奏会(オーケストラ・トリプティーク 代表(団長)ヴィオラ奏者 伊東美香)

⑦文化財の危機管理セミナー「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅡ(文化財保存支援機構 理事 増田勝彦)

⑧日本国内における銀板写真(ダゲレオタイプ)の保存に関する悉皆基礎調査と持続可能型保存ネットワークの構築に関する研究(日本大学芸術学部 教授 高橋則夫)

⑨東京藝術大学ウィンドオーケストラ・シカゴ公演(東京藝術大学 音楽学部 教授・演奏芸術センター長 山本正治)

⑩国宝伴大納言絵巻現状模写研究(東京藝術大学 美術学部 教授 手塚雄二)

⑪エジンバラ・フェスティバル・フリンジ邦楽公演2016(東京藝術大学 音楽

委員会他

⑥講演会・シンポジウム・展覧会等の後援

(ア)第11回「文化財保存・修復―読売あをによし賞」を後援
主催：読売新聞社

後援：文化庁、独立行政法人国立文化財機構他
(イ)「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅠ、レベルⅡを後援
主催：特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

共催：独立行政法人国立文化財機構
東京国立博物館他
後援：日本文化財科学会他

(ウ)文化遺産国際協力コンソーシアム設立10周年記念シンポジウム
「文化遺産からつながる未来」を後援
主催：文化庁、文化遺産国際協力コンソーシアム他

後援：外務省、東京文化財研究所他
(エ)東日本大震災復興支援チャリティー企画第18回「文化人・芸能人の多才な美術展」を後援
主催：特定非営利活動法人「日本国際文化遺産協会」文化人・芸能人の多才な美術展実行委員会

(オ)「静岡アール・バレ展」を後援
主催：アール・バレ展実行委員会

(カ)「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」を特別協力
主催：東京国立博物館、アフガニスタン情報文化省、産経新聞社他

(キ)東京藝術大学 アフガニスタン特別企画展「素心 バーミヤン大仏天井壁画」を協力
(協力名義は、「流出文化財保護日本委員会」)

研究科(邦楽専攻 修士課程 北川綾乃)
⑫(外国人研究者招致)
日仏の製紙法研究者・製造者・修復家による共同研究(山領絵画修復工房 修復技術者 川村朋子)

■国際協力事業

文化財の保護及び芸術文化に関する国際的な協力・交流、人材養成事業など申請のあった10件の事業の中から、7件の事業に対して助成を行った。

①敦煌研究院より研究員招致(彭 文佳)
2016年4月1日～2017年3月31日

②敦煌研究院より研究員招致(王 学麗)
2016年10月1日～2017年9月30日

③トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の保存、修復と若手専門家の養成(公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所長 大村幸弘)

④ウズベキスタンにおける文化遺産保存修復技術実技講習(駒澤大学文学部非常勤講師 古庄浩明)

⑤タイ及び日本所在の幕末期日本製伏螺鈿製品に関する調査研究(東京文化財研究所 室長 二神葉子)

⑥アゼルバイジャン発掘展の開催と現地博物館コンテンツ作成(東京大学 総合研究博物館 教授 西秋良宏)

⑦フアヤズ・テペ遺跡出土仏教壁画の保存修復(奈良文化財研究所 国際遺跡研究室 アソシエイトフェロー 影山悦子)

■重点助成事業

(1)尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
東芝プラントシステム株式会社の支援により、尼門跡寺院文化財の保存修復事業に対して助成を行った。(修復継続中)

○宝鏡寺門跡四体のうち「月鏡軒御像」の

二十八年度で支援いただきました賛助会員の皆様

- 法人正会員(二十一社) 【五十音順】
朝日生命保険相互会社
株式会社 NHKエンタープライズ
株式会社 NKB
鹿島建設 株式会社
株式会社 講談社
株式会社 集英社
全日本空輸 株式会社
株式会社 高島屋
武田薬品工業 株式会社
株式会社 竹中工務店
株式会社 電通
東京ガス 株式会社
株式会社 東京ドーム
トヨタ自動車 株式会社
日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社
野村ホールディングス 株式会社
有限会社 丸栄堂
三井住友海上火災保険 株式会社
株式会社 三井住友銀行
株式会社 三越伊勢丹
株式会社 ミロク情報サービス
法人維持会員(十四社) 【五十音順】
大塚ホールディングス 株式会社
大阪ガス 株式会社
洲本観光 株式会社
株式会社 精養軒
宗教法人 全昌院
大日本印刷 株式会社
大和建設 株式会社
千代田絨毯 株式会社
株式会社 東京マリー美術
株式会社 など
はあーとふるふぁんど委員会

浜名梱包輸送 株式会社
株式会社 平成建設
株式会社 横井春風洞

賛助会員ご入会とご寄付を頂き
ました皆様

●平成28年12月11日から

平成29年5月25日まで

敬称略／順不同

☆賛助会員

○個人（正）会員（氏名／住所）

☆寄付金

○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に
対する寄付

ヤフーネット募金（374名様）

文化財保存修復支援カレンダー基金

（株）ジャックス

共同印刷（株）

○尼門跡寺院文化財修復助成事業に対する寄付
東芝プラントシステム（株）

○松尾大社本殿等修復支援事業に対する寄付
平成の御遷宮奉賛会（158件）

○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援
事業に対する寄付

創作陶芸研究会

（公財）小野奨学会

九州国立博物館

新百合混声合唱団

南部藩寿松院年行司支配太神楽による備
品整備事業

⑫岩手県・砂子畑丹内神楽 代表 川崎敏彦

砂子畑丹内神楽による備品整備事業

⑬岩手県・根岬梯子虎舞組 代表 菅野修一

根岬梯子虎舞組による梯子製作事業

⑭岩手県・砂子畑道々虎舞 代表 栗沢哲生

砂子畑道々虎舞による備品整備事業

⑮岩手県・なかまち「絆」の会 代表 村上馨

なかまち「絆」の会による仲町虎舞用具整
備事業

⑯岩手県・雁舞道七福神会会長 渡辺裕人

雁舞道七福神会による用具整備事業

⑰宮城県・中浜神楽保存会 会長 島田敬二

中浜神楽保存会継承用具復旧事業

（記念物・埋蔵文化財）

⑱茨城県・下石崎氏子総代会 総代表 照山勝夫

茨城町石造道標地蔵尊修復事業

**熊本地震被災文化財救援・修復支援事業の
状況**

被災文化財の救援と修復のために募金
（寄付）にご協力いただき誠に有難うござ
います。皆様方から頂きました貴重な浄財
は被災文化財の救援等のために、平成28年
度は左記のとおり活用させていただいてい
ます。

未だに被災状況の全貌は把握できていな
い状況ですが、今後は個々の被災文化財に
対する支援が必要です。

1 平成二十八年年度末募金（寄付）受入状況

受入件数 133件

受入金額 8,863千円

2 支援状況

平成28年度は、熊本県教育委員会からの
支援要請に基づき、独立行政法人国立文化
財機構が実施した熊本文化財レスキュー事
業に対し助成を行いました。

助成額 4,000千円

○熊本地震被災文化財救援・修復支援事業
に対する寄付

全国近代化遺産活用連絡協議会

（公社）日展

メナード美術館のお客様

芦屋町観光協会

（特非）日本国際文化遺産協会

理事長 松岡久美子

群馬県教育委員会文化財保護課久留末の会

アーツ千代田331&わわプロジェクト

JOBANアートライン協議会

京都工芸美術作家協会

（公社）能楽協会

岩国郷土史会

特集

**東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事
業の状況**

1 支援事業について

被災文化財の救援と復旧のために募金
（寄付）にご協力いただき誠に有難うござい
ました。皆さま方からこれまでいただきましたま
した浄財を被災文化財の救援・復旧のため

に活用させていただいてい
ます。

本事業は、助成を開始して
から5年の節目を迎え、募金
活動は平成28年度末をもつ
て終了いたしました。しか
し、未だに支援の手を待って
いる文化財は多数あり、助成
については平成29年度も引
き続き実施し、その後も予算
の許される限り息の長い取
り組みを行ってまいります。

**2 平成二十八年年度支援事業
一覧**

被災した県から27件の申
請があり、審査の上、18件に
助成を行いました。

（美術工芸）

① 岩手県・光勝寺

阿弥陀如来像修復事業

（建造物）

② 岩手県・盛合光徳

「盛合家」復旧・復元修理
事業

③ 岩手県・弥栄日吉神社

氏子総代表 金田則士

「弥栄日吉神社三殿一体」
傾斜補正事業

④ 岩手県・菊池長一郎

東屋土蔵復旧・復元修理事業

⑤ 宮城県・気仙沼風待ち復興検討会代表理

事菅原千栄

気仙沼内湾地区国登録文化財等復興事業
（角星店舗復元）

⑥ 宮城県・気仙沼風待ち復興検討会代表理

事菅原千栄

気仙沼内湾地区国登録文化財等復興事業
（小野健商店土蔵修復）

祈り申し上げます。

林 有厚様

当財団前副理事長でありました林有厚様
（元（株）東京ドーム社長）が、平成29年5月
17日にご逝去されました。永年にわたり理
事及び副理事長として財団の運営を支えて
いただきました。ここに深く感謝し謹んで
ご冥福をお祈り申し上げます。

今号の表紙

平山郁夫 おなが鳥

中国や日本の絵画において、花鳥画とい
う分野が確立されている。平山画伯の言葉
を借りれば、花は美しく、鳥は愛らしい。

花は鳥を慕い、鳥は花を愛めるといふ、互
いの親密な関係の中に絶妙に構築された自
然の仕組みに畏敬の念を覚える……という
ことになる。

昭和四〇年代、画伯は好んで鳥を画題と
して描いていた。ここに描かれているオナ
ガは、学問的に言えばスズメ目カラス科に
属する鳥である。顔と頸は黒色、背は灰色、
腹は灰白色、翼と尾の大部分は灰青色、尾
は長い。

日本では本州の東側の地域にその姿を見
ることが出来る。

緑濃い木立の中、番（ばん）

おなが鳥 1965年



おなが鳥 1965年

であろう。互
いに信頼し
あい、ひと
きの休息を
楽しんでい
るような姿
は当時の画
伯の心境を
垣間見るよ
うでもある。

(H29.5.31現在)

区分		支 援 事 業 の 状 況										
		募金 (寄付) の状況 上段：件数 下段：金額	文化財保存修復助成					文化財レスキュー助成			振込 手数料等	合計
			美術 工芸品	建造物	記念物 埋蔵文化財	無形 文化財	計	美術 工芸品等	建造物	計		
平成 23年度	544 274,999	助成数 助成金		1 1,000			1 1,000	1 40,000		1 40,000	177	2 41,177
平成 24年度	168 51,159	助成数 助成金	11 7,425	42 62,094	2 1,598	21 15,315	76 86,432	1 20,000	1 6,000	2 26,000	231	78 112,663
平成 25年度	109 28,453	助成数 助成金	7 3,000	29 49,543		17 18,030	53 70,573	1 5,000	1 4,000	2 9,000	146	55 79,719
平成 26年度	74 46,840	助成数 助成金	2 1,200	19 19,300	2 1,100	9 11,536	32 33,136				39	32 33,175
平成 27年度	56 26,611	助成数 助成金	1 600	15 28,800	1 300	2 900	19 30,600				20	19 30,620
平成 28年度	2 16,757	助成数 助成金	1 600	9 36,700	1 500	7 6,360	18 44,160				13	18 44,173
平成 29年度		助成数 助成金		15 29,000		3 2,000	18 31,000					18 31,000
合計	973 444,819	助成数 助成金	22 12,825	130 226,437	6 3,498	59 54,141	217 296,901	3 65,000	2 10,000	5 75,000	626	222 372,527

(金額：千円)

- ⑦ 宮城県・羽黒神社 代表 庄司純
羽黒神社・月山湯殿神社殿改修工事
- ⑧ 茨城県・矢口喜代
矢口家長屋門修復事業
- ⑨ 茨城県・雷神社 宮司 増淵堯美
雷神社本殿・幣殿・拝殿保存修理事業
- ⑩ 千葉県・三谷昌子
三谷家座敷屋修復工事事業
- ⑪ 岩手県・南部藩寿松院年行司支配太神楽
胴取 三浦成三

編集後記

財団創設以来、御指導賜りました俵谷利
幸、林有厚の両氏が相次いで幽明界を異に
されました。誠に寂寞の念を禁じえません。
ここに両氏の御冥福を心よりお祈り申し上
げます。

財団の事務局は上野の山にあります。今、
ここは緑一色につつまれております。緑は
躍動する生命を象徴する色ですが、俵谷、
林のおふたりの赴報に接すると世の無常を
感じます。

めまぐるしく変わる世界情勢の中にあつ
て日本が経済大国であることは批判はある
にせよ、間違いないでしょう。ならば、それ
にふさわしい文化、芸術面での予算を計上
してほしいと願うのはいけないことではし
ょうか。ぜひ世界に冠たる官民一体となった
文化立国をめざしてほしいと思います。

本稿を書いている時、梅雨入り宣言が為
されました。季節はめぐり、次は夏です。私
どもも健康に留意し、与えられた任務を全
ういたす所存です。

皆さまにおかれましても、健康に御留意
され、大いに英気を養い、太陽の季節を十分
お楽しみください。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)
二〇一七年 夏号 通巻第八十四号

★平成二十九年六月二十六日発行
★編集発行／公益財団法人文化財保護・
芸術研究助成財団 事務局◎
〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五十
電話 (〇三) 五六八五一二二一
FAX (〇三) 五六八五一五二二五
URL: http://www.bunkazai.or.jp/
E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 株式会社 東都工芸印刷